

想い | つくる | 伝える

胎内市  
阿賀町

[ F u u d ]  
2024 夏号  
—季刊—

# 反骨の姫君

2024 Eye's  
新潟ここだけ物語

幕 佐渡

がんばろう ● ニッポン!

Take Free  
ご自由にお持ちください

武門の誉れ高い一族が、時流に逆らひ滅びようとした瞬間、死力を振り絞って抵抗した姫君が越後にいた。その驚愕の戦闘能力と、敵方に捕らえられても武門の義を貫いたあっぱれな生き方は、時を超えて今も人びとを魅了する。  
(明治30(1897)年 豊原国周作「歌舞伎座 中幕 板額女 市川團十郎」の一部 新潟市歴史博物館蔵)



① 今回の取材テーマ

どっこん水とサクラマス

14

取材メモ

14



わたべ  
カメラマンの



②

今回訪ねた胎内市の平野部には、胎内川の豊富な伏流水が湧き出している、名水「どっこん水」として知られている。

4年前、胎内川の脇に造られた大きなため池で、佐藤美紀三さんという老人に出会った。佐藤さんは父が趣味で始めた食用コイの養殖を引き継ぎ、60年ほど前から本格的な養魚場を始めた。「水が良いから、とにかく魚が元気に育つんですわ」と、ここの地下水を絶賛。最盛期には難易度の高い、ギンザケの養殖まで成功させていたという。

しかし体力を使う仕事なので、年齢とともに徐々に事業を縮小、10年ほど前には閉業の準備も始めていた。そのタイミングで思わず後継者が現れる。当時、サクラマスの養殖のために全国各地で候補地を探していた鳥取県の水産会社「弓ヶ浜水産」が、水の良さと佐藤さんの実績を知り、養魚場を引き継ぎたいと言ってきた。現在、佐藤さんのため池の隣には、近代的



③ 元気に跳ねる、サクラマスの稚魚。

④ ため池の前に立つ、佐藤美紀三さん。

⑤ 稚魚の世話ををする、弓ヶ浜水産・胎内養魚場スタッフ。

写真、文章／スタジオF(t) 渡部 佳則

## 編集後記

やっぱり歴史は面白い。板額姫の人物像を追いかけると、貴族政治から武士政治へ日本の歴史が転換する時代のうねりが見え、そのエネルギーが板額姫と越後城氏一族の未来を劇的に変えたことが分かった。歴史の敗者になった越後城氏だが、資料を見るかぎり一族の結束力は固く、正々堂々と戦うことをボリシーにした一徹で純朴な大将の像が浮かぶ。ある歴史好きの人によれば、「城一族は善良な人たちだけど、物事には淡白だった」という。原稿を書き上げた直後、思いがけず越後城氏の始祖、平維茂の子孫にお会いした。將軍杉がある阿賀町岩谷で肝煎を代々つづけてきた齋藤家の18代当主、永重さんで、維茂の九男・平太政茂の末裔にあたるという。桓武天皇から始まる数冊にもおおよぶ家系図や明治時代の古文書を前にし、それまで薄ぼんやりしていた維茂の姿がはっきり見えてきた。永重さんの風貌も細面で貴族風だった。(渋川)

## ふうど 2024夏号 vol.65

企画編集 ふうど編集室  
発行人 高橋 佑  
取材編集 渋川綾子  
佐々木聰  
写真 渡部佳則  
デザイン 斎藤道司  
題字 小林 翠

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800  
■東京支社 / 〒113-0034 東京都文京区湯島3丁目24-11 湯島北東ビル2階 TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884  
■上越営業所 / 〒943-0805 新潟市上越市木田2丁目1番1号 上越セントラルビル5階2 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 520-7049  
■東北営業部 / 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5丁目3-7 上杉オオハラビル501号室 TEL (022) 266-1711 FAX (022) 266-1712  
■東海・関西営業部 / 〒464-0025 愛知県名古屋市千種区桜井丘29番地 第8オオタビル7階 TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081  
■オフィシャルサイト / <https://www.takayoshi.co.jp>

## 「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】<中央区>ANAクラウンプラザホテル新潟、NST、上古町商店街、旧小澤家住宅、県立自然科学館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、田中屋本店など工房、朱鷺メッセ、新潟絵屋、新潟 加島屋本店、新潟県庁広報展示室、新潟県民会館、新潟県立図書館、新潟県国際情報大学 新潟中央キャンパス、新潟市生涯学習センター、新潟市食育・花育センター、新潟市立中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンプラザ、ビアBandai、ホテルイタリア軒、ホテル日航新潟、りゅーじあ新潟市民芸術文化会館 <東区>新潟空港、桑名病院、パティスリークフェオルレアン <西区>新潟せんべい王国、ピューロ島、鶴川公民館、鶴川公民館 <南区>新潟市農業活性化研究センター <北区>新潟せんべい王国、ピューロ島、鶴川公民館 <北区>介護老人保健施設鳩山園、新潟市立亀田図書館、北方文化博物館 <西蒲区>カートナッジ、ドーナツ・ショコラ <秋葉区>カフエチャリーやまぼうし、川内自動車、新津鉄道資料館

【新潟市】加治川地区公民館、案雲寺地区公民館、新発田市生涯学習センター、新発田市立図書館、豊浦地区公民館、【聖籠町】聖籠観音の湯 ざぶーん 【村上市】イヨボヤ会館、村上市観光協会 【長岡市】新潟県立歴史博物館、長岡市立科学博物館、長岡大学、長岡市立中央図書館、やまこし復興交流館おたらる 【燕市】分水ビジャーサービスセンター 【出雲崎町】越後出雲崎天領の里 【十日町市】十日町市観光協会、十日町市博物館 【南魚沼市】柳苑 【上越市】上越觀光コンベンション協会、上越市立水族博物館うみがたり、上越市立高田図書館、上越市役所、上越あるるん村 【佐渡市】SADO伝統文化と環境福祉の専門学校、ホテル佐渡、佐渡市立図書館

【東京都】<中央区>プリジニがた <千代田区>新潟市東京事務所  
本誌に掲載されている写真等の無断転載はご遠慮ください。

エコプレス  
バインダー

針金・糊・加熱が不要な  
製本方法を採用し、  
リサイクルや怪我の危険を  
配慮しています。



この印刷物は環境にやさしい、  
米ぬか油を使用したライスインキで  
印刷しています。

# 滅びても 名は残つた



新潟には八百年以上の時を超えて、人びとを魅了する姫君武将がいる。鎌倉幕府に反旗をひるがえした城軍を、若き大将とともに率い、平氏の歴史を清々しく幕引きした板額御前である。その天才的な弓の腕前と、滅びても武門の矜持を崩さなかつた様子が、幕府の歴史書「吾妻鑑」に記され、あまりにも強烈なコンテンツゆえに、庶民の間で語り継がれてきた。いつたい、どんな姫君だつたのか。

## 想い 越後平氏の美学

### 白鳥山の麓で

源氏物語が世にでて百五十年ほどが過ぎた、一一八〇年（治承四）五月のとある朝である。ここ越後国の北にある奥山荘は、山桜が終わり緑一色の柳形山脈に囲まれる季節を迎えていた。山脈の西端にある急峻な白鳥山の麓に、城一族の六代目棟梁、城資永の居城が築かれ、目を奪われるほどの豪壮さをもって世間を隔絶している。土塁と堀を巡らした堅牢な城内に三

棟の館がたち、板額はその一画で日々を送っている。その日も眩しい光と小鳥の囀りに包まれて、いつもどおりの朝を迎えた。城の東側に伸びる細い谷では家臣団の家々が朝餉を炊く竈から上がる煙がたなびき、西側の崖下に広がる平地では、農民たちが夜が明けぬうちに田畑を耕し、海のよう見える塩津潟では網を放つ漁師の姿が小さく見える。その先にはうららかに波立つ日本海に粟島がぽつんと浮かんでいる。板額は毎朝、この大きな風景を眺めた後に、弓や刀の稽古に励む。城氏は「弓」の

### 滅びのカウントダウン

北西の風が、崖の上の城館に激突し、唸り声をあげはじめた十月のこと。奥山荘の堅牢な城にも、ついに時代の波が到達した。木曾義仲に攻め込まれ、領地を失った信濃平氏の武将、笠原頼直とその家族と郎党一行、百人ほどが城氏を頼り逃げのびてきたのだ。一族の中でも武勇に優れ人望も篤かった資永の実弟、資職（後の長茂）は諸国に『白河御館』と称された武将。陰

家」として誉れ高い家柄。また東北の豪族同士の争いで敗れた一族の直系である母は、常日頃「おなごで最も自分の身を守るために武芸を磨きなさい」と教えていた。板額はその言いつけを素直に守り稽古に励んでいる。そんな奥山荘から遠く離れた都市、その後の日本を搖るがす事件が起きていた。後白河院の第三子、以仁王が平氏打倒の令旨を發し、奥州藤原氏とならぶ権威と財力をもつ城一族は、少しも危機感を抱くことはなかった。この反乱は辺境の越後では、小さな事件にすぎなかつた。この反乱では、その後の日本を搖るがす事件にすぎなかつた。この反乱では、その後の日本を搖るがす事件に

敗！千曲川の横田河原で三千騎の義仲軍の奇襲に遭い、残った兵は三百人ほど。この戦いで笠原頼直も、一族の求心力だった叔父、恵日寺の乗丹坊も命を落とす。辛うじて資職と従兄弟は新発田の山奥にある支城、赤谷城に逃げおおせた。だが源頼朝が勢力を拡大しはじめた時期で、敗将が歩む道は狭く陥しかつた。城氏の本拠地では、それまで対立していた国司の襲撃を受け、城氏の権威は次第に衰退し、支配地の耕作地も働き手を失い荒廃していく。そんな状況のなか、板額は棟梁を欠いた一族を支えながら二十年の歳月を過ごす。そして城氏は諦めなかつた。頼朝は鎌倉幕府を開き十年も満たない一二〇一年（建仁元）の正月、城一族は最後の賭けにてた。幕府に対しきーデターを起こしたのだ。が、これもあえなく失敗！資職は逃亡先で自害したと伝わる。この動きに呼

応し越後で留守を守る板額と資職の甥、資盛が各地で蜂起。死を覚悟した城軍は強く、越後の討伐軍との間で膠着状態が続いた。が、大軍を擁した幕府軍が参戦するにあたり、ついに白鳥山の鳥坂城の籠城戦に追い込まれ、幕府軍と死闘の末、城

軍が敗れる。板額が背後から弓に撃たれ両脚を負傷してしまったのである。大将を失った城軍は、総崩れになり敗退する。こうしてかつて幕府の捕虜になつた資職に目をかけてくれた源頼朝の側近、梶原景時の無残な死をきつかけ

### 板額の原風景

この鳥坂城で板額の奮戦ぶりが、鎌倉幕府の歴史書「吾妻鑑」に記さ

に、幕府に深い絶望と不信を抱き、平氏再興を企てた城氏の夢は潰えた。



板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。  
板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での奮戦ぶりと、その後の生涯について説明が書かれている歌川国芳の「賢女烈婦伝」の一部。板額姫は淨瑠璃や歌舞伎の演目で取り上げられ、歌川豊国や月岡芳年など多くの浮世絵師が武将姿の板額を描いている。（東京都立図書館蔵）

板額姫が生まれ幼少期を過ごした胎内市飯角の風景。地区の外にある熊野若宮神社の境内の脇に板額御前生誕の地の碑が立つ。

板額姫の鳥坂城での

# 大地に記した城氏の栄光

つくる

阿賀北のバイオニア

未開地の開拓者

## 名将軍の越後入り

阿賀町岩谷の山中にそびえる将軍杉。樹の高さは約40m、幹まわりは19m32cmと日本一の大さ。樹齡は1400年と推定され、巨木の正面に会津藩初代藩主・保科正之が立てた墓碑がある。

城氏は桓武天皇の血筋をひく、桓武平氏の軍事貴族である。平安時代後期に越後入りし、次第に領地を拡大し、鎌倉幕府の草創期には、新潟県の約三分の一にあたる阿賀野川北部地域と会津に勢力が及んだ。その一世紀半におよぶ城氏のサクセスストーリーを圧縮してみる。

越後城氏の始祖は、下総国(千葉県)の国司との争いに破れ越後に逃ってきた平維茂とされている。維茂は武門の最高名誉である鎮守府将軍を朝廷から何度も任命されたほどの名武将。一〇〇五年頃に阿賀町三川の平等寺薬師堂を創建したとされている。寺堂の脇に日本一の太い幹回りで屹立する将軍杉は、その足元に眠る維茂を守りながら、いまも巨木のオーラを発し時代の移り変わりを睥睨している。

放映中の大河ドラマでお馴染みの藤原道長に莫大な貢物を三回した記録がある。

維茂の子、平繁成は奥州の土着豪族・安倍氏が朝廷に背いた時、出羽を託された職を任命され国司とともに数千の討伐軍を率いて対戦したが、地元民を総動員した安倍軍に大敗を喫す。いわゆる「前九年の役」という、九年におよんだ東北動乱の初期の戦いである。繁成と家臣団は敵の追撃を恐れ山中を潜伏しながら岩船郡関川村に流れる女川を伝い、奥山荘に辿り着いたとされる。繁成は当時の多くの敗残武士団のように、未開地の開墾に力を注ぎ、それを新たな勢力基盤として確立しようとした。それ以降、子孫は姓を「平」から秋田城介に因む「城」を名乗り、代々その姓が受け継がれていく。そして維茂の孫・永基の代に岩船地域の開拓がほぼ終了するや、その子らが新発田方面に進出し、昔からの土着農民や地元豪族の掌握も含めた莊園化が進んでいく。こうして前項でとりあげた資永・資職兄弟の時代になり、城氏の全盛期を迎える。

当時の莊園は、国に納める税が免除され、司法・警察などの国家権力の介入を拒否できる特権をもつた自由領域で、城氏は中央の有力者に莊園を寄進し関係性を深めながら、足元で独立国家的な地方政権を形成したのだった。その背景に武力と政治的センスがあるが、さらに豊かな水に恵まれ、水田耕作の可能性を秘めた未開地が限りなく広がっていた阿賀北の風土は見逃せない。

それにしてもなぜ短期間に、これほどまでに領地を拡大できたのか。そこに城氏の開発事業家としての優れた経営手腕が窺える。

## 城氏の財力

この説明だけでは城氏の実力は想像しにくい。しかし新潟県に隣接する福島県会津坂下町には、城氏の莫大な財力を想起する城の遺構があり、近年の発掘調査で全容が明かされつつある。『新編会津風土記』に「城資職が築いた二十八館のひとつ」の城と記述されている陣ヶ峰城である。阿賀川の左岸で旧越後街道の峠の出口に位置し、会津盆地が一望できる標高一九五メートルの段丘上に築かれた広大な城跡が、後の世上に開発を免れて現存する。敷地の三方に土塁を築き、その足元に深さ十メートル程の堀が巡らされてい

新潟にも城氏の財力を窺わせる寺院がある。城氏が庇護した「領内三ヶ寺」と謳われた寺院である。胎内市乙の乙宝寺、阿賀野市出湯の華報寺、そして新発田市岡田の法音寺がそれで、城氏の文化政策を知るうえで欠かせない仏閣である。いずれも天平年間に、聖武天皇の勅願を受けた僧行基が開山したとされる由緒ある古刹。とりわけ乙宝寺は、城氏と関係が深い。資永・資職兄弟の叔父、宮禪師が長い間、荒廃し

た寺の敷地から仏舎利を掘り当て、それを祀るために城氏が伽藍を建立し復興させたという歴史がある。いまも広大な境内に三重塔をはじめ貴重な歴史的建造物が多く残る。ただ華報寺と法音寺は、鳥坂城の攻防戦の際、幕府軍の進軍路に位置していたため、莊厳な大伽藍は幕府軍に打ち壊され火を放たれて灰塵に帰し、城氏の榮華はすっかり忘れられている。



将軍杉の隣にある平等寺薬師堂。平維茂が阿賀野川で黄金の薬師像を見つけ、それを安置するため建てたとされるが創建年代は諸説ある。木造建築としては県内最古のものひとつ。

歌川国芳が描いた「本朝武者鏡」に登場する平維茂。朝廷の勅命を受け伊さまから授かった刀で鬼女・紅葉を退治という伝説に基づいている。能・淨瑠璃や歌舞伎の演目の一ひとつ。  
(出典／刀剣ワールド財団)



胎内市の浜手、乙にある乙宝寺の三重塔(上)と仁王門。城一族の宮禪師が発掘した釈迦の目を納めた舍利塔は大日堂地下室の宝物殿に安置されている。



# 板額姫が待つていてる



伝える 山中に眠る中世

## 反逆者が受けた賛辞

板額姫も見た白鳥山の鳥坂城跡から望む胎内市と日本海。この眺望なら敵の動きが手にとるように見えただろう。水田が広がる場所は、城氏の時代は灌漑施設がなく、ほとんどが潟や沼だった。2024年6月撮影。

もういちど板額姫の武将として、ラストシーンを思い出してみる。鎌倉幕府の編纂書『吾妻鑑』の一〇一年五月十四日(旧暦)の項に、二〇一九年五月十四日(旧暦)の項に、といえども、百発百中の芸、ほとほと父兄に超ゆるなり」と記されている。幕府の謀反人にもかかわらず、ベタ誉めである。この一文は越後の戦場から幕府に送られた報告書をもとに記載された、紛れもない歴史的真実である。散々幕府軍を手こずらせた反乱軍の大将が女性だった

者によつて語り継がれていくなかで、敗者がこれほど肯定的に語られることは稀だらう。では世間に注目された鳥坂城の決戦とは、どのようなものだったのか。いざ現地へ!と気勢をあげてみた。が、現実はそう簡単ではなかった。城一族の本丸である、その城は胎内市と新発田市に連なる櫛形山脈の西端に位置する、標高二九八メートルの白鳥山(しらとりやま)の頂上にある。

&lt;/div